

対ラオス人民民主共和国 国別援助方針

平成 24 年 4 月

1. 援助の意義

ラオスは、インドシナ半島の中央に位置し、周囲をカンボジア、中国、ミャンマー、タイ及びベトナムの5か国に囲まれ、メコン地域の要衝を成しており、同国の安全と発展は、メコン地域、ひいてはASEAN全体の安全と繁栄のために必要不可欠である。

同国は、鉱物資源、水力発電分野における好調な成長などを背景として、着実な経済発展を遂げている。一方で、ミレニアム開発目標（MDGs）の達成及び2020年までの低開発途上国（LDC）からの脱却などを国家目標に掲げており、解決すべき課題が残されている。

また、2015 年の ASEAN 共同体構築に向けて、ASEAN の連結性強化や ASEAN 内における新旧加盟国の格差是正の観点から同国を支援することは、アジアと共に成長することを目指す我が国にとって重要である。

なお、1991年以降、我が国は、対ラオス支援のトップドナーとして、同国との間で良好な関係を築いており、同国は、国連をはじめとする種々の国際場裡において我が国と協調関係にある。

2. 援助の基本方針（大目標）：MDGs 達成及び LDC からの脱却への支援

ラオス政府は、第 7 次社会経済開発計画の中で経済成長率 8%以上とする目標を掲げ、経済発展を急務としつつも、その課程で生じうる負の側面を懸念し、バランスの取れた形での経済発展を志向している。

我が国は、同国の開発目標達成を支援し、ASEAN が進める統合、連結性の強化、域内の格差是正を図っていく観点から、「経済・社会インフラ整備」、「農業の発展と森林の保全」、「教育環境の整備と人材育成」及び「保健医療サービスの改善」の 4 つを重点分野とし、特に、環境などにも配慮した経済成長の促進に一層の重点を置いた援助を展開する。

3. 重点分野（中目標）

（1）経済・社会インフラ整備

持続可能な経済成長を実現するため、ASEAN 連結性強化に資するインフラ（道路、橋梁、空港など）整備、本邦企業のラオス進出を促す投資・貿易環境（物流センターなど）整備、安全かつ安定的な電力供給の拡大による国内の電力へのアクセス格差是正と電力輸出に向けた支援を行う。また、バランスのとれた経済発展を実現するため、環境と調和した快適な社会構築に資する支援（環境管理、浄水場、都市計画など）を行う。

（２）農業の発展と森林の保全

ラオスの主要産業である農業セクターの振興及び貧困層の大半を占める農民の所得向上により、ラオス経済の安定的成長や、経済成長に伴う都市と地方の格差是正を図るため、灌漑農業などによる生産性向上や商品作物栽培促進のための支援を行う。また、森林保全及び貧困削減のため、森林資源の持続的活用と生計向上のための支援を行う。

（３）教育環境の整備と人材育成

社会経済開発の鍵となる人材を育成するため、教育環境の整備、教員の質と学校運営の改善を支援する。初等及び中等教育では、我が国が多くの国で支援の実績を有する理数科教育分野を中心に支援を行う。また、民間経済セクターの強化促進のための高等教育・技術職業教育への支援を行う。

（４）保健医療サービスの改善

保健分野における MDGs の達成のため、母子保健分野を中心に、医療人材育成に対する支援、保健医療サービスへのアクセス改善のための医療施設整備を中心に保健システム強化に対する支援を行う。

4. 留意事項

（１）開発促進及び援助効果向上の観点から、行財政能力強化や法制度整備などのガバナンス面の強化の必要性に留意する。

（２）「グリーン・メコンに向けた 10 年」イニシアチブに関する行動計画に基づき、環境と経済成長の両立、持続可能な開発及び気候変動対策の必要性に留意する。

（３）ラオス全土に残存する不発弾が農地やインフラ用地の拡大を妨げ、社会経済発展の障壁となっているため、セクター横断的な問題として、同国の不発弾処理の必要性に留意する。

（了）

別紙： 事業展開計画